

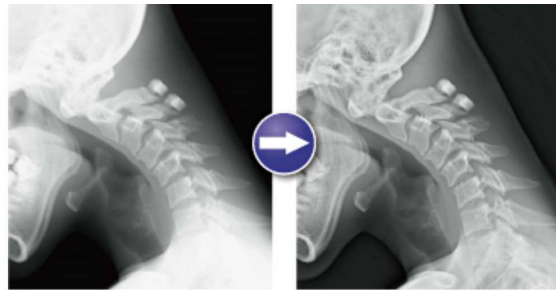
特集

更新装置トピックス

デジタルフラットパネル方式  
一般X線撮影装置

以前のX線写真といえば、フィルムを暗室で現像を行っていたため写真ができるまで約5分以上かかった時代もありました。

この度、X線撮影装置が更新され、更に被ばく低減が行えるフラットパネル方式が導入となりました。このフラットパネル装置を使用することで、例えば頸椎の上部・下部など一枚のX線写真での抽出が難しい部位などが最新の画像処理技術により、高画質な



以前のCR画像

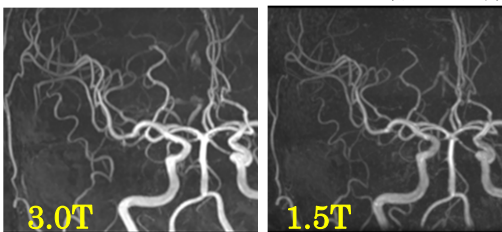
最新のデジタル画像

X線写真として瞬時に提供することが可能となりました。さらに患者氏名と撮影部位の確認が室内ででき、より安全で正確な検査を提供できるようになりました。また、内装も明るくなり温かみのある検査室で安心して検査を受けていただく環境が整いました。

最新機器で脳ドック  
3T・MRI装置標準化

脳の中を検査するにあたって、MRIは不可欠な検査機器です。脳疾患の中でも脳血管疾患は脳動脈の異常が原因で起こる病気です。脳血管疾患は自覚症状が少ない場合が多く、発症後は後遺症により生活に大きな支障きたすことも多いため定期的に検査を受ける事が有効な予防法となります。

当院では、本年度より脳ドック検査を3T・MRI装置(詳細は中央放射線ニュース15号)で行っています。高画質な画像を提供することで脳血管疾患の早期発見の助けとなります。



ワイヤレスフラットパネル方式  
移動型X線装置でも活躍中

病室で撮影を行うための移動型X線装置は、撮影したフィルムを専用の読み取り機で読み込む必要があります。そのため放射線検査室に戻り、現像処理を行う必要があり画像提供に時間がかかっていました。

移動型X線装置もフラットパネル方式になり、撮影したその場でノートパソコンに表示することができるようになりました。高画質なX線写真を瞬時に提供できるだけでなく、手術後の確認撮影や挿入チューブの位置確認がその場で行うことができるため、その後の処置をスムーズに行えるようになりました。

さらに、フラットパネル装置により、被ばく低減が可能となっています。

